

# medical B.I.G. netの取り組みについて

## 湘南西部病院協会 会長 鈴木龍太

資料10



県の2019年度「地域医療介護総合確保基金事業のうち、病床の機能分化・連携に関する事業」

事業名: 入退院支援推進事業費

予算額: **539万円** (補助率3/4)

補助先: 湘南西部病院協会

を受け2020年度から本格始動

### 目的

湘南西部医療圏の地域包括ケアシステム構築

医療と介護の各施設が**受け入れ可能な患者情報**を、クラウド上で共有する

その情報に基づいて**転出転入院、転出転入所**を促進する

### 命名

当時湘南西部病院協会会長の丹羽明博先生の発案

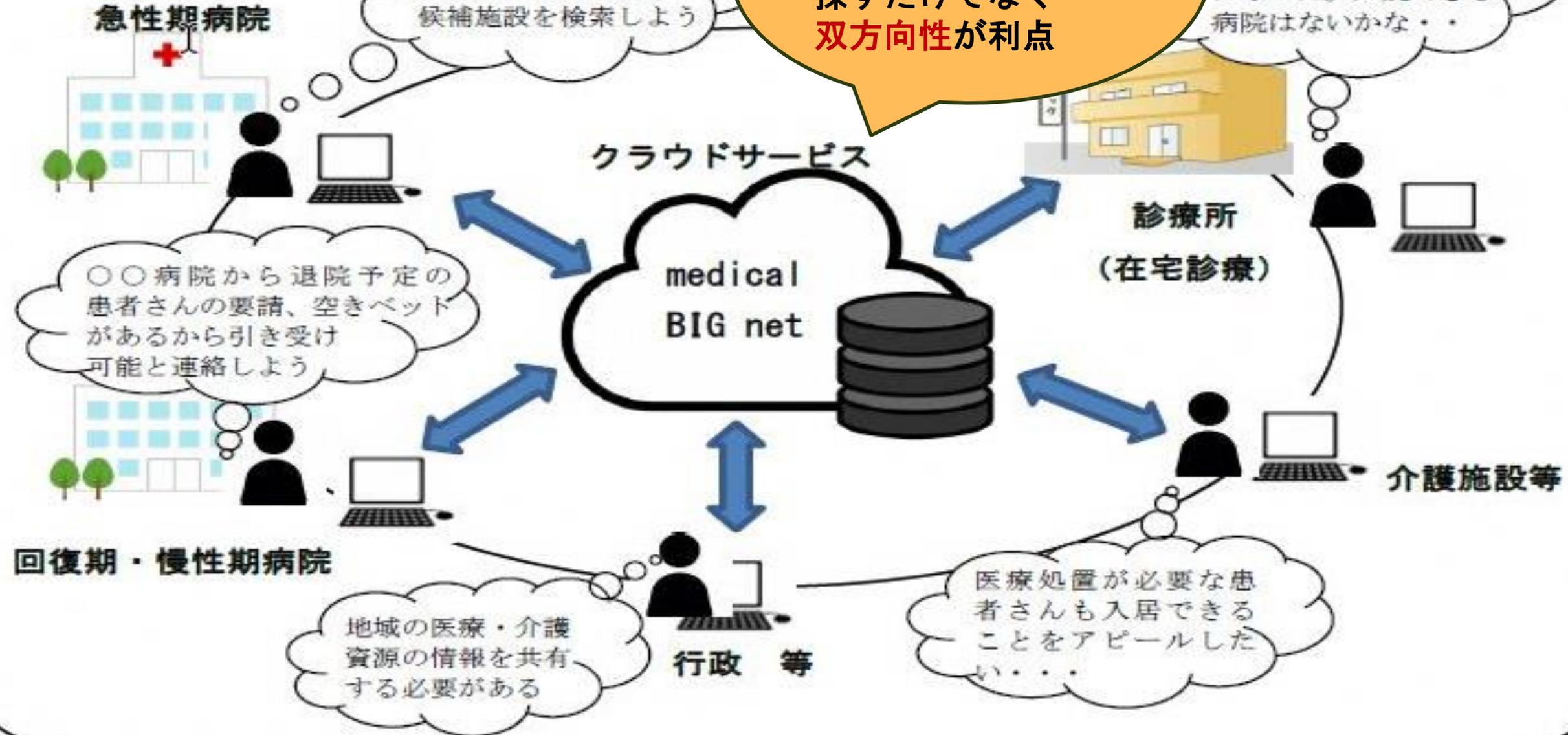
病院協会(各病院)、医師会(在宅医療)、行政(介護施設)が協力し合うことが必須

B: 病院 I: 医師会 G: 行政(介護施設)の3者を撮り

medical B.I.G. net と命名

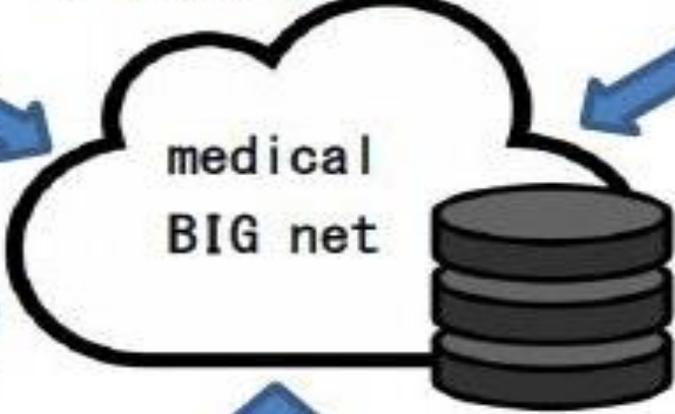
2020年から本格始動

【システム利用イメージ】



他のシステムと違い  
急性期からの下りを探  
だけでなく  
双方向性が利点

クラウドサービス



急性期病院

診療所  
(在宅診療)

回復期・慢性期病院

介護施設等

行政等

胃ろうの患者さんが転院  
できる施設・病院は、  
〇〇市にあるかな？  
候補施設を検索しよう

在宅で診療してきた  
患者さんの入院が必要  
になった。入院できる  
病院はないかな...

〇〇病院から退院予定の  
患者さんの要請、空きベット  
があるから引き受け  
可能と連絡しよう

地域の医療・介護  
資源の情報を共有  
する必要がある

医療処置が必要な患  
者さんも入居できる  
ことをアピールした  
い...

# MedicalB.I.G.netの利点



- ①BIG net 上では医療行為や条件が可能な施設の検索にとどめている。  
マッチングすれば電話・Faxで詳細な情報をやり取りする。  
最初に多くの施設に**問い合わせ**をするが、その**時間が大幅に短縮**できる。
- ②一度に複数の施設に打診ができ、**退院困難な患者の受け入れ先選定の一助**となる
- ③電子カルテとは連動していないので、患者個人を特定する**個人情報**  
**は扱わない**。そのため患者の同意は必要ない
- ④簡単に自施設情報が更新できる
- ⑤**会員施設が多いほど**  
業務時間の短縮ができる  
患者・家族のニーズに合った転帰先が探せる  
スムーズな退院支援が可能となる



# 新規事業 退院時共同カンファレンスへの活用 (医療・介護保険算定可)



## medical B.I.G. net上で

- ①担当できるケアマネを探す
  - ②退院カンファレンスへの参加事業所の決定
  - ③システムを利用して退院カンファレンスの日程調整
  - ④病院が資料をクラウドにFAX送信
  - ⑤カンファレンス参加事業所がクラウドに資料を取りに行く
  - ⑥資料で事前確認を行う
- ここまでの準備がmedical B.I.G. net上でできる。

カンファレンスの実施  
対面、  
Zoom/Webex

会員数 20病院から32病院に増加 地域も拡大



2020.4

湘南西部病院協会の全20病院+平塚市医師会・秦野伊勢原医会で開始

2021.2 湘南西部二次医療圏のみ

20病院、8診療所、11入所介護施設

2022.8 参加施設の医療圏が拡大

32病院 14医科診療所 30入所介護施設

8 非入所介護事業所 その他(医師会、行政等)14施設

病院内訳 合計32病院

湘西 20

県西 6

県央 5

湘東 1

# 紹介先施設の区分別件数

2022年には病院、介護施設の利用が急増している





- ①病院・診療所・介護関連事業所が、住民のために協力して地域包括ケアシステムを推進していくツールとして認識されつつある  
利用することで、業務改善に繋がる。
- ②会員数が増加し、湘南西部だけでなく、県央、県西、湘南東部へ広がっている。
- ③介護施設、訪問看護の会員も増え、実績も増えている。
- ④他のシステムと違い、急性期からの下り依頼だけでなく、慢性期・診療所・介護施設からの上り下り等双方向が可能であることが特徴
- ⑤新たに退院時共同カンファレンスへの活用にも利用できるもので、推奨している。